



TITLE:

京大広報 No. 376

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 376. 京大広報 1989, 376: 767-784

ISSUE DATE:

1989-09-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209301>

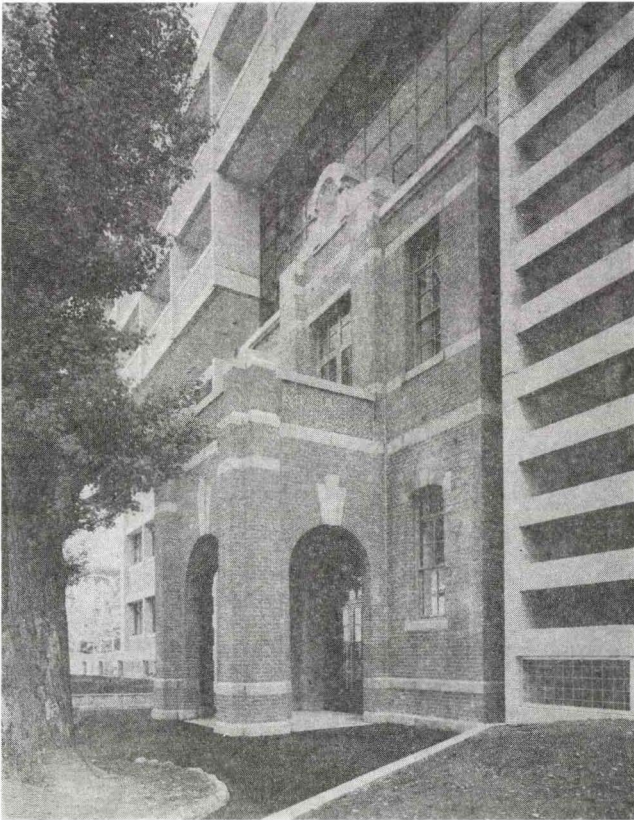
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 376

京都大学広報委員会



完成した工学部電気系学科等研究棟 —関連記事本文771ページ—

目次

＜大学の動き＞

- 京都大学春秋講義（秋季講座）の開講…………… 768
- 京都大学市民講座の開講…………… 769
- 教養部「尚賢館」が焼失…………… 770
- 西島総長、ドイツ連邦共和国訪問…………… 771

＜部局の動き＞

- 工学部電気系学科等研究棟が完成…………… 771

故 百名盛之教授の

教育学部追悼の集い…………… 772

公開講座

工学部「拡がりゆく工学」…………… 772

医療技術短期大学部

「健康科学公開講座

一支えあって生きる一」…………… 772

農学部

「農業簿記・農業経営講習会」…………… 773

数理解析研究所「数学入門」…………… 773

人文科学研究所

「生活空間の文化史」…………… 773

理学部「高等学校教育関係者

のための現代数学展望」…………… 773

情報処理教育センター

「パソコンプログラミング入門」… 774

霊長類研究所「霊長類の進化」…………… 774

医療技術短期大学部説明会…………… 774

＜紹介＞

農学部食品工学教室…………… 775

討 報…………… 777

＜保健コーナー＞

「歯槽膿漏です。なおりますか？」… 778

＜資料＞

国立大学教官等の待遇改善に

関する国立大学協会の要望書…………… 780

日 誌…………… 782

お知らせ…………… 782

＜随想＞

カリキュラムを思う

名誉教授 前川道郎…………… 783

＜コラム＞

韓国の友人たち

文学部教授 松尾尊兌…………… 784

写真集企画委員会からのお願い…………… 784

<大学の動き>

京都大学春秋講義（秋季講座）の開講

本学では、財団法人京都大学後援会の協力により、一般市民を対象とする「京都大学春秋講義（秋季講座）」を下記のとおり開講する。

なお、本講座を本学教職員及び学生にも広く開放するため、30名の特別受講枠を設けることとした。詳細については、後日、各部局あて通知する。

記

☆月曜講義（5回シリーズ）

メインテーマ『現代とフランス革命』

開 講 日	講 師	テ ー マ
10 月 2 日	名 誉 教 授 河 野 健 二	フランス革命と明治革命
10 月 23 日	人文科学研究所 教 授 阪 上 孝	政治変革
10 月 30 日	文学部教授 服 部 春 彦	経済問題
11 月 13 日	人文科学研究所 助 教 授 富 永 茂 樹	文化の変容
11 月 27 日	名 誉 教 授 樋 口 謹 一	革命思想

定 員 120名

受 講 料 6,000円

会 場 京都大学 時計台1階法経第2教室

時 間 午後6時30分～8時30分

申込締切日 9月25日（月）

☆水曜講義

開 講 日	講 師	テ ー マ
10 月 4 日	名 誉 教 授 竹 内 實	天安門事件を考える
10 月 18 日	理学部教授 廣 田 勇	オゾンホール
11 月 15 日	法学部教授 高 坂 正 亮	緊張緩和後の世界
11 月 29 日	理学部教授 中 川 一 郎	地震予知をめざして
12 月 6 日	医学部教授 中 西 重 忠	遺伝子工学と医学

定 員 120名

受 講 料 1講義分 1,200円、5講義分 6,000円

会 場 京都大学 時計台1階法経第2教室

時 間 午後6時30分～8時30分

申込締切日 9月25日（月）

○ 申込方法

- ① 月曜講義、水曜講義の別々に往復はがきで下記の申込先へ申し込むこと。申込はがきには、住所、氏名、電話番号を書くこと。なお、水曜講義の場合は受講希望日を必ず書くこと。（返信はがきにも住所、氏名を必ず書くこと。）
 - ② 申込者が定員を超えた場合は、抽選により受講者を決定する。
 - ③ 受講料は、受講決定通知を受領後、郵便局の所定の振込口座へ振り込むこと。一度支払われた受講料は返金しない。
- 受講資格は問わない。
- 申込先 庶務部研究協力課研究協力掛（内線2041, 2043）

京 都 大 学 市 民 講 座 の 開 講

本学では、来る10月21日、28日、11月4日の各土曜日に広く一般市民を対象とする「京都大学市民講座」を開講する。

本講座は、財団法人京大会館楽友会の協力の下に、昭和54年以来毎年開かれているもので、今年度は「はな」を共通テーマに、総合大学の特色を生かして学問の諸領域にわたる講義が行われる。

受講定員 400名

受講料 1,500円

申込方法 往復はがきに住所、氏名、年齢、職業、電話番号を記入（返信用には郵便番号、あて名を記入）の上、9月30日（土）までに庶務部研究協力課研究協力掛（内線2041, 2043）へ。

なお、本講座を本学教職員及び学生にも広く開放するため、60名の特別受講枠を設けることとした。詳細については、後日、各部局あて通知する。

会 場 法経第4教室

日 程

開 講 日	テ ー マ	講 師
第1日 10月21日（土） 13:00～16:40	開講のあいさつ	総 長 島 安 則
	「花を育てる」	農 学 部 教 授 浅 平 端
	「歌道における花」	教 養 部 教 授 田 啓 介
第2日 10月28日（土） 13:00～16:30	「フランス文学のなかの花」 —ルソーの場合—	文 学 部 教 授 中 川 久 定
	「発光デバイス」 —エレクトロニクスの華—	工 学 部 教 授 松 波 弘 之
第3日 11月4日（土） 13:00～16:40	「高齢化社会と花」	医 学 部 助 教 授 村 井 淳 志
	「人生の花」 —発達心理学的見地から—	教 養 部 教 授 村 井 潤 一
	閉講のあいさつ	経 済 学 部 長 尾 崎 芳 治

教養部「尚賢館」が焼失

去る7月3日午前8時18分頃、教養部尚賢館中央部から出火、木造平屋建369㎡を全焼した。

同館は、大正天皇即位の御大典に際し京都御所に臨時造営された第二朝集所を、三高創立50周年を記念する企画に合わせて大正7年に宮内庁から贈られた建物である。当時は、教官研究室兼教官会議室として使用され、最近では、学生の集会やサ

ークル活動に使用されていた。

左京消防署と川端警察署による合同の現場検証の結果、同館には火の気が全く無かったので、不審火による火災と推定された。

構内では、このような不審火が昨年より続発しており全学あげて不審火を含めた火災の発生防止対策に最善の努力を払わなければならない。教職員・学生になお一層の協力をお願いしたい。

最近の火災発生状況

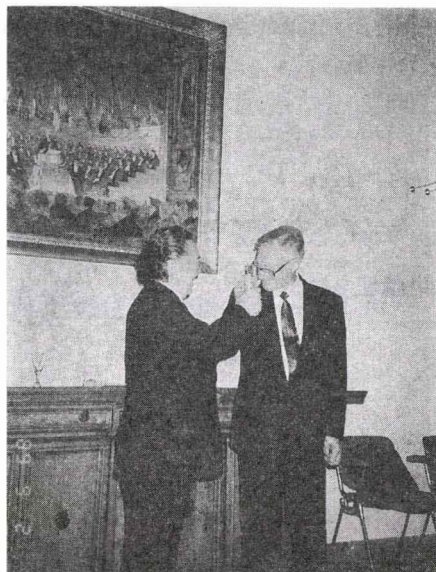
出 火 日 時		出 火 場 所	出 火 原 因	損 害 の 程 度
62. 4. 23	午後 7時40分頃	工学部電気系教室北館の掲示板	不審火（放火）	掲示物の一部損傷
62. 4. 23	午後 9時頃	法経本館の掲示板 （経済学部大学院生連絡用）	不審火（放火）	ク
63. 5. 31	午前 8時頃	食糧科学研究所 （3階研究室）	恒温水槽のヒーターの過熱	ドラフトチャンバーの一部損傷 （建物に損害なし）
63. 8. 2	午後 3時20分頃	文学部東館心理学共同 研究室内 （2階）	不審火	書類及び消耗品の一部を焼失 （建物に損害なし）
63. 8. 5	午前 5時46分頃	生活協同組合南部食堂	不審火	窓ガラス、壁の一部（20㎡） 損傷
63. 9. 10	午前 4時13分頃	西部構内学生サークル 部室東棟	不審火	全 焼
63. 11. 21	午前 2時25分頃	医学部本館2号棟（4 階）（附属免疫研究施設 洗浄室内）	電気配線の老朽化による 過熱	電源コード等消耗品の一部を 焼失 （建物に損害なし）
元. 2. 7	午前 2時40分頃	北部グラウンド （伐採した雑木の焼却 跡から出火）	焼却跡の消火が不完全で あったため	損害なし
元. 5. 3	午前 4時過ぎ	本部棟北側生活協同組 合中央購買部倉庫付近	不審火（放火）	壁面5㎡、屋根6.4㎡を焼失
元. 5. 3	午前 4時過ぎ	経済研究所1階西側電 算準備室	不審火（放火）	壁面2.3㎡焼失、窓ガラス一部 破損、パソコン1式、OAテー ブルその他電算関係機器損傷
元. 6. 19	午後 7時5分頃	工学部金属工学教室実 験室裏の空地 （放置バイク炎上）	放置バイクのガソリンを 抜き取り中、爆発したもの と推定	損害なし
元. 7. 3	午前 8時18分頃	教養部尚賢館	不審火と推定されるが現 在、消防、警察で調査中	全 焼
元. 7. 15	午前 8時55分頃	工学部4号館3階（北 東隅廊下）合成化学教 室移動式掲示板	不審火（放火）	掲示板表面のラジャの一部焼 損、掲示物の一部焼失

西島総長、ドイツ連邦共和国訪問

西島安則総長は、8月31日から、訪独日本学長代表团（東京大学、一橋大学、中央大学、早稲田大学、京都大学、大阪市立大学、東京工業大学、上智大学各大学長）の一員として、ドイツ連邦共和国における高等教育・研究機関の視察並びに学術交流に関する意見交換を行うため同国を訪れ、予定どおりの旅程を終えて、9月8日帰国した。

今回の訪問は、ドイツ連邦共和国研究・科学技術省の招きにもとづき、アレキサンダー・フォン・フンボルト財団の世話によるもので、ミュンヘン大学、ミュンヘン工科大学、マックスプランク量子光学研究所、シュトゥットガルト大学、マックスプランク固体物理研究所、ベルリン工科大学、ベルリン自由大学、ベルリン日独センター、ドイツ連邦共和国研究・科学技術省、アレキサンダー・フォン・フンボルト財団、ドイツ学術交流会（DAAD）、ボン大学（訪問順）を訪れ、各訪問先においてそれぞれ関係者と高等教育、学術研究の

あり方と課題及び学術国際交流の進め方について意見交換・討議を行った。



ミュンヘン大学（Ludwig-Maximilians-Universität München）の Wulf Steinmann 学長と再会をよるこび、まずは乾盃（1989年9月1日）

<部局の動き>

工学部電気系学科等研究棟が完成

工学部では、昭和63年3月より建設を進めてきた電気系学科等研究棟（鉄骨鉄筋コンクリート造、地下1階・地上5階、延4,027.8㎡）がこのたび竣工した。

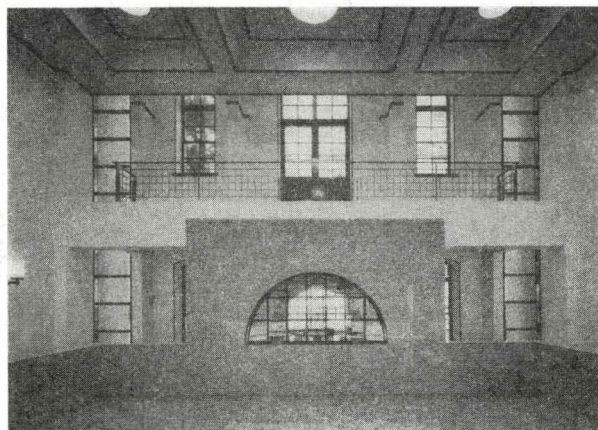
この研究棟は、4教室・2施設（電気系3教室、応用システム科学教室、附属イオン工学実験施設、附属重質炭素資源転換工学実験施設）の異なる分野におけるハイテクノロジー研究開発の実験研究棟であり、さらに国際交流を促すためのスペースを配した合同の施設である。

新営の建物は、明治の面影を残す貴重な歴史的建造物であった旧電気工学教室本館（レンガ造2階建）の跡地に建替えられたものであり、当時のアーチ形の玄関ポーチと両サイド壁面の一部をそのまま研究棟正面玄関として組み込

み、これを保存している。

なお、完成に伴う披露・祝賀の記念行事は、去る8月26日（土）、午前11時より京大会館において、西島安則総長をはじめ学内外の関係者約130名の出席を得て挙行された。

（工学部）



完成した工学部電気系学科等研究棟の玄関ホール

故百名盛之教授の教育学部追悼の集い

3月21日逝去された故百名盛之教授の追悼の集いが教育学部主催により、7月8日(土)午後2時から3時30分まで、本学部第1講義室において執り行われた。(教育学部)

—公開講座—

工 学 部

「拡がりゆく工学」

工学部では、去る6月10日から7月1日まで4回にわたり、毎週土曜日の午後1時30分から5時まで本学部大会議室において、公開講座を開催した。

今回で9回目を迎える公開講座は、「拡がりゆく工学」をメインテーマに一般市民を対象として、工学部の教授、助教授、講師が各自の研究分野から、工学がさまざまな分野で広く応用されるようになってきている現状について分りやすく解説することを主眼としたものである。

受講者は、107名であった。

なお、講義題目・講師は次のとおりであった。

大阪ペリエリアの再生	吉川 和広
生活と廃棄物	寺島 泰
自然言語理解	西田 豊明
人工心臓開発の動向	赤松 映明
スペースプレーンと新材料	山口 正治
イオンビームと新物質	今西 信嗣
バイオインダストリーに	
おける分離・精製	加藤 滋雄
ガン治療と化学	生越 久靖

(工学部)

医療技術短期大学部

「健康科学公開講座

—支えあって生きる—

医療技術短期大学部では、去る7月8日から29

日まで毎週土曜日の午後4回にわたり、本短期大学部講義室において、一般市民と医療従事者を対象に第2回健康科学公開講座を開催した。

本年度は「支えあって生きる」をテーマに、教育学部の田中教授、健光園の小園園長をはじめ、本短期大学部の教授、助教授がそれぞれの専門分野の立場から、人を支え且つ人に支えられることの意味について具体的に解説した。

講座は、西島学長の「支えあって生きる」を敷衍する開講挨拶に始まり、下記の講義題目による講演の後、齋明寺学部部長のまとめのことばと謝辞で閉講した。受講者は66名であった。

相関・相依

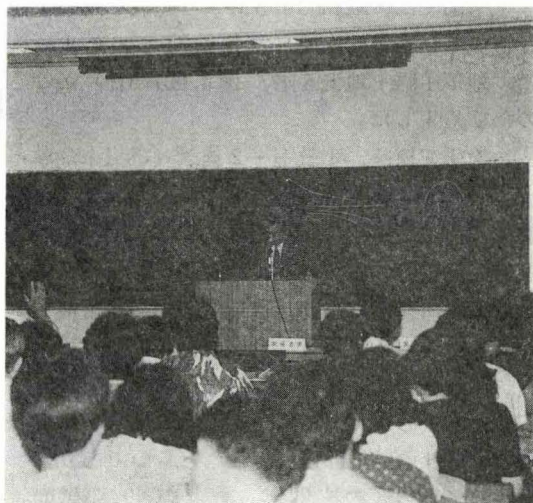
一癒しを育むもの一	石井 誠士
家庭看護に求められるケア	近田 敬子
「学習障害児」	
一いかに育てるか一	小西 紀一
こどもの芽を伸ばす	

(教育学部) 田中 昌人

人間関係

一教育の場合と医療の場合一	岡田 敬司
文学の中に見られる健康	加茂 映子
神経病とともに	藤原 哲司
お年寄りを支える	(健光園) 小國 英夫
「終末期」を支える	丸山 咲野
支えあうことの意味	

——精神科医の立場から—— 松本 雅彦
(医療技術短期大学部)



医療技術短期大学部公開講座

農 学 部

「農業簿記・農業経営講習会」

農学部・農業簿記研究施設では、7月11日から16日までの6日間、農学部講義室において公開講座「第53回農業簿記・農業経営講習会」を開催した。

この講習会は、農業簿記とそれに基づく農業経営の分析・診断・計画並びに農業投資・地域計画などに関する理論と実務の普及を目的としたものである。講習会には農業改良普及員、農林行政担当者、農業協同組合職員、高校教員その他団体職員など北海道から九州まで全国各地から77名が参加し、連日午前9時から午後5時まで受講した。講義科目、講師は次のとおりであった。

農家経済簿記および農家経済の分析・診断
稲本 志良・桂 利夫
農業経営複式簿記
阿部 亮耳・稲本 志良
農業投資および資金の計画・管理・分析
亀谷 暁・辻井 博
地域農業および農業経営の分析・診断・計画
西村 博行・熊谷 宏・宇佐見晃一
(農学部)

数理解析研究所

「数 学 入 門」

数理解析研究所では、7月25日から8月3日までの間(7月29日・30日を除く)午後1時15分から5時まで、本研究所4階大講演室において、公開講座「数学入門」を開催した。

この公開講座は、社会人、中・高校教員、学生等を対象に、専門的題材をわかりやすく解説しようとするものであり、97名が受講した。講義題目、講師は次のとおりであった。

定角曲線について 松浦 重武
微分方程式と数値解法 一松 信
確率・意思決定 楠岡 成雄
空間との長いつきあい 成木 勇夫
(数理解析研究所)

人文科学研究所

「生活空間の文化史」

人文科学研究所では、夏期公開講座を8月1日から3日間、午前9時より正午まで本研究所本館大会議室において開催した。

1949年以来40回目を迎えた本年の講座は「生活空間の文化史」を共通テーマとし、連日約100名の受講者があった。講義題目・講師は次のとおりであった。

京都の町(ちょう) 塚本 明
江戸社会へのまなざし H・ボライソ
孝子のパラダイス
一漢代祠堂考一 佐原 康夫
漢字以外 高田 時雄
革命と伝統
一民法典の編纂過程一 阪上 孝
フランス革命と知識一度量衡
の統一と共和暦の制定一 富永 茂樹
(人文科学研究所)

理 学 部

「高等学校教育関係者の

ための現代数学展望」

理学部数学教室では、平成元年8月3日から8月9日までの6日間、標記の公開講座を本教室講義室において開催した。数学の発展が数学教育にも大きな影響を与えていることに鑑み、この公開講座は、主として高等学校の数学教育関係者を対象に、いくつかの話題を選び、数学の最近の発展についての展望を与えることを目的としている。

11年目の今年、各地から約50名の受講者があった。講義題目と講師は次のとおりであった。

多元数とトポロジー 西田 吾郎
数学的帰納法について 永田 雅宜
非線形偏微分方程式 西田 孝明
有限次元空間と無限次元空間 池部 晃生
(理学部)

情報処理教育センター

「パソコンプログラミング入門」

情報処理教育センターでは、8月21日から8月25日までの5日間、午後1時から5時まで本センター2階講義室において、公開講座「パソコンプログラミング入門」を開催した。

第1回目の本年度は、初等・中等教育でのコンピュータ教育が今後必須になると思われるため、この種の教育を担当したり、コンピュータを専門科目の教育に活用しようとする京都市内の中学校教員を対象とした。パソコンのプログラミング実習を通して、コンピュータの基礎知識を修得してもらうことを目的としたものである。

受講者は、21名であった。

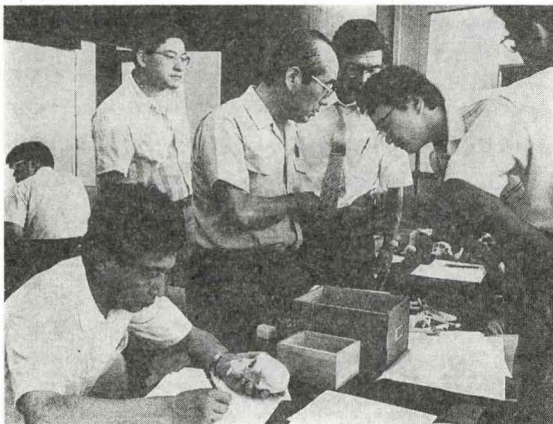
なお、講義題目・講師は次のとおりであった。

計算機と情報化社会	長谷川利治
計算機科学の基礎	八村廣三郎
プログラミング実習	八村廣三郎・藤井 康雄 辻 斉・新出 尚之 (情報処理教育センター)

霊長類研究所

「霊 長 類 の 進 化」

霊長類研究所では、8月24・25日の両日にわたって公開講座を開催した。今年は第5回目である。



霊長類研究所公開講座；骨学実習風景

参加者は中・高校教員が圧倒的に多いものの、会社員、薬剤師、主婦と幅広い。例年どおり大多数は東海地域在住者であるが、近畿や関東地域からの参加者もあった（参加者80名）。今回は、霊長類の特徴を組織学、神経生理学、運動様式、動物社会学の観点から取り上げ、さらに人類の起源論へと話題を押し進めた。また、参加者全員に対し実習を行い、自分自身で研究の現状が理解できるよう配慮した。

講義題目と講師は以下のとおりである。

総合司会 相見 満

歯の内部構造	野上 裕生
視覚認知と記憶	三上 章允
サルの歩き方	木村 賛
社会進化と家族の起源	加納 隆至
染色体実習	石田 貴文
骨学実習	毛利 俊雄
神経生理学実習	久保田 競
心理学実習	松沢 哲郎
	(霊長類研究所)

医療技術短期大学部説明会

医療技術短期大学部では、7月21日（金）午後1時より4時30分まで、本短期大学部についての説明会を開催した。

説明会には高校生308名、高校進路指導教諭3名の参加者があった。

説明会では、まず大講堂において、参加者全員に本短期大学部の特色、入試概要、各学科の教育内容などが、資料及びスライドを用いて説明された。

次に学内施設見学があり、6グループに分かれて、約1時間学内を見学した。

最後に、各学科ごとに分かれての個人相談を行い、参加者と教官との懇談の機会を設けた。また、学生生活や入試に関する一般的な相談にも応じた。

参加者の94.5%がアンケートに応じ、その内の99%がこの説明会が参考になったと回答している。（医療技術短期大学部）

<紹介>

農学部食品工学教室

食品工学教室は、昭和42年農学部に設置された。設置に際しては、それまで農芸化学教室に属していた栄養化学講座、農産製造学講座が本教室に移り、食品化学講座、微生物生産学講座、農業分析学講座、酵素化学講座が新たに開設され、6講座からなる現在の食品工学教室が完成した。

本教室開設当時から今日に至る間、世界的には飢餓や栄養欠乏が依然として残っている一方、我が国では、肥満や成人病が新たな問題となってきた結果、理想的な食品、あるいは食品の果たすべき役割も大きく変化し、多様になってきている。食品工学教室では、食糧危機に備えた食品の開発とともに、今日的な意味での理想的な食品、すなわち健康の維持に積極的に働きかける機能を持ち、安全性が保証され、かつ嗜好の点でも広く受容される食品の創成を使命として、バイオテクノロジーに食品製造工学的手法を加味した幅広い研究を行っている。本教室を構成する各講座の研究内容を紹介すると次のとおりである。

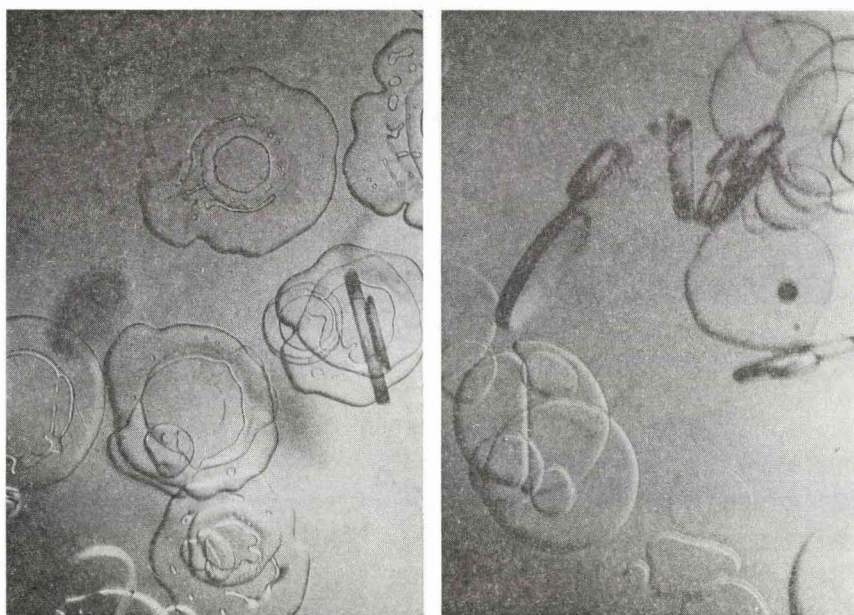
栄養化学講座：動物の健康、生命現象にとって最も理想的な栄養状態を追求している。

食物の摂取は、動物に対して様々のシグナルを発信し、動物はこれに対応するため、情報の受容・伝達・増幅、代謝調節等巧妙な制御機構を具備している。これらの制御システムやその作用機構を解明し、食物摂取との相互作用を解析することが最も重要な課題である。現在に、小腸上皮細胞の分化・増殖、膵酵素分泌の情報伝達、膵酵素の誘導・抑制、脂肪細胞の分化・形成、運動による筋肉の増大等に関

する機構について、遺伝子のレベルで解析するとともに、摂食との関わりについて研究を行っている。

農産製造学講座：生物機能に関する基礎研究の実際への応用は社会の要請であり、また、研究者の夢でもあるが、その到達への道程は容易ではない。バイオリアクター、生体成分の分離・精製・濃縮及び食品加工プロセス中で起こる現象の定量的把握を通じて、基礎研究の具現化への橋渡しの役割を果たそうと意欲を燃やしている。一方、巧みで複雑な植物の遺伝子発現一特に光による遺伝子発現制御一について、遺伝子操作技術を駆使した分子レベルの研究により、現象の底に潜む機構を解明し、その成果を植物育種に役立てるものと懸命な努力をしている。

食品化学講座：食品中の蛋白質は必須アミノ酸の給源や食品物性を支配する因子として重要であるばかりでなく生体調節因子としての役割を持つ



凍結濃縮装置内で生成、成長する円盤上氷結晶（左：デキストラン溶液中、右：水中）

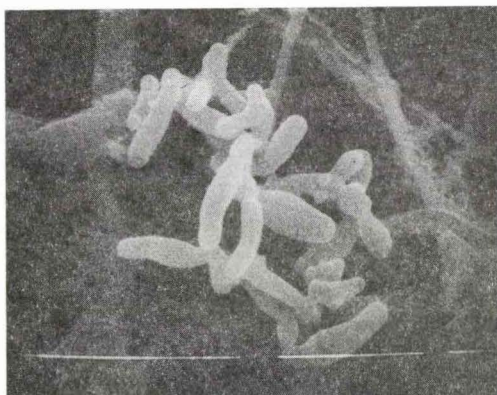
ている。蛋白質のこのような多様な機能性を生化学的及び生理学的に解析するとともに、これらの知見を基に食品蛋白質に酵素的、遺伝子的の変更を施し、その有効性を高めることを目指している。具体的には、食品蛋白質より派生する生理活性ペプチド、血球分化因子の作用機構と食品成分による調節、蛋白質の酵素的修飾、遺伝子操作による

食品蛋白質の効率的生産及び改良に関する研究を行っている。

微生物生産学講座：人類は有史以前から酵母、かび、バクテリア等の微生物を利用して酒類、みそ、醤油、食酢、パン、チーズなどの多種多様な発酵醸造食品を生産してきた。

このような伝統的発酵醸造技術に基づいて、アミノ酸や核酸、抗生物質、ホルモン、酵素等の近代的工業生産が発展している。このような微生物利用の歴史的背景を踏まえて、微生物が営む様々な生命現象を、遺伝子や酵素のレベルで解析し、食品分野での新しい微生物利用の途を開くべく研究を行っている。

農業分析学講座：生命現象に関わる天然物



人腸内棲息菌 *Bifidobacterium breve*
(ビフィズス菌)

質（生理活性物質）の化学的究明とその作用機作の解明等を行うとともに、食品・農医薬分野への応用のための基礎的研究を展開している。動植物細胞の増殖、分化をコントロールする物質の究明とその作用機作の解明、並びに熱帯アフリカ及び東南アジア産植物に含まれる新規生理活性物質の究明と、それを出発点とした応用可能な有用物質の開発が主要テーマである。一連の研究成果は、各種生物が本来保有している生命機能の分子レベルでの解明につながり、生理的機能の高い有用物質の開発を通じて関連諸分野に貢献している。

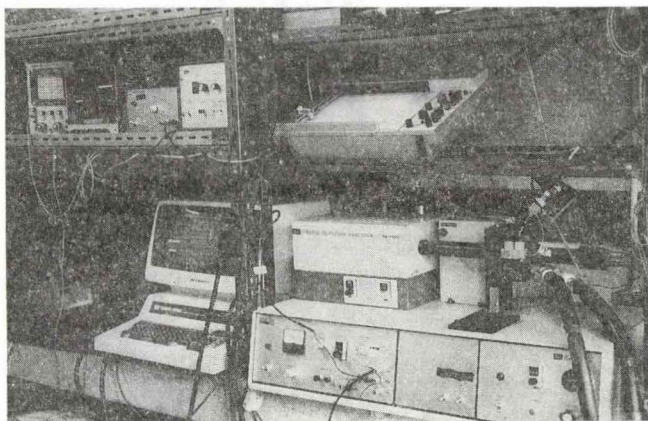
酵素化学講座：酵素化学とは、究極的に



未知の生理活性物質を求めて速くアフリカ熱帯雨林の有用植物探索調査

は酵素の機能と構造との相関関係を明らかにする学問であるとの理解のもとで研究を進めている。酵素は、蛋白質を主体とする生体触媒であり、生物体内のほとんどすべての化学反応に深く関わっていて、現在、約2,500種類が登録されている。酵素の持つ機能—温和な条件下での高い触媒効率、触媒する反応の種類と対象とする物質についての高い選択性、そして特異的な制御—は、それらの構造のどのような特徴に由来するのであろうか。食品に関連の深い糖質関連酵素と蛋白質加水分解酵素及び蛋白質生合成の過程において遺伝情報の忠実な発現を司るアミノアシル tRNA 合成酵素を現在の主たる研究対象としている。

（農学部）



ミリ秒の反応を追うストップフロー装置

訃 報

小山睦夫原子炉実験所教授

原子炉実験所教授小山睦夫先生は、7月12日逝去された。享年56。

先生は、昭和31年京都大学理学部を卒業後、本学助手に採用され、助教授を経て昭和61年原子炉実験所教授に就任された。

この間、学生の教育・指導に熱心に取り組まれ、また、研究面では原子炉化学を中心に数多くの優れた業績を残された。主な著書に『多重酸化状態をもつ放射性同位元素の分析化学的研究』、*Trace Elements in Land Plants: Concentration Ranges and Accumulators of Rare Earths, Ba, Ra, Mn, Fe, Co and Heavy Halogens* 等がある。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(原子炉実験所)

牧 健二名誉教授

本学名誉教授 牧 健二先生は、7月24日逝去された。享年96。

先生は、大正7年に京都帝国大学文科大学、続いて同10年に法学部を卒業。本学助教授を経て、昭和5年法学部教授に就任。同20年12月退官。この間、昭和13年6月から15年6月まで法学部評議員、同16年5月から18年2月まで法学部長を歴任され大学の管理運営に貢献された。同50年1月京都大学名誉教授の称号を授与された。

本学退官後は、京都学芸大学、龍谷大学の教授を歴任された。

専門は日本法制史。本学在職中には、封建制度の比較的研究、固有法の研究、藩法の編纂等で画期的な業績をあげられ、本学退官後も日本の原始国家を論じて、邪馬台国九州説の中心になるなど、晩年まで研究活動を続けられた。主な著書に『日本の原始国家』『日本封建制度成立史』などがある。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(法学部)

大杉治郎名誉教授

本学名誉教授大杉治郎先生は、8月12日逝去された。享年69。

先生は、昭和18年京都帝国大学理学部を卒業後、本学講師、助教授を経て昭和37年理学部教授に就任、同58年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を授与された。

本学退官後は、大阪工業大学の教授として教育研究にあたるかたわら、(財)生産開発科学技術研究所熱物性・高圧データセンターの長として、その運営に尽力された。

先生の専門は物理化学で、中でも化学反応速度論・高圧物理化学の分野で優れた研究業績を残された。ことに日本で初めて10万気圧の静水圧発生に成功したことはよく知られている。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(理学部)

和田節子文部技官

文部技官和田節子氏は去る8月14日逝去された。享年60。

同氏は昭和22年6月本学技術課(現施設部設備課)に就職以来42年余りの永きにわたり本学における電話交換運用業務一筋に尽力された。昭和42年・昭和52年には京都大学永年勤続者表彰(20年・30年勤続)を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(施設部)

長石忠三名誉教授

本学名誉教授長石忠三先生は、8月30日逝去された。享年81。

先生は、昭和8年京都帝国大学医学部を卒業後、本学助手、助教授を経て昭和28年結核研究所教授に就任、同46年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を授与された。この間、39年10月から41年10月まで結核研究所長(結核胸部疾患研究所長)を務められ大学の管理運営に貢献された。

本学退官後は、財団法人田附興風会理事長、同

会附属北野病院長を歴任された。

先生の専門は胸部外科学であったが、中でも肺結核と肺癌の研究において数多くの優れた研究業績を残された。主な著書に『肺癌』, *The Cavernostomy, Functional Anatomy of the Lung*, 『肺その構造』等がある。

これら一連の研究活動、学術上の貢献に対し、American College of Chest Physicians 学術映画賞（昭和35年）、日本翻訳出版文化賞（47年）、武田科学振興財団武田医学賞（49年）等を受賞され、53年には勲三等旭日中綬章を授与された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（胸部疾患研究所）

深瀬政市名誉教授

本学名誉教授深瀬政市先生は、9月4日逝去された。享年75。

先生は、昭和14年京都帝国大学医学部医学科を卒業後、本学副手、助手、講師、助教授を経て昭和41年医学部教授に就任、昭和50年島根医科大学長就任のため退官され、京都大学名誉教授の称号を授与された。この間京都大学医学部附属病院第二内科長、中央検査部長、附属臨床検査技師学校長を歴任され大学の管理運営に貢献された。

本学退官後は島根医科大学創設準備室長、同初代学長を歴任され、昭和59年退官とともに同大学名誉教授の称号を授与された。

先生の専門は内科学の中でも特に臨床免疫学、血液学であり、自己免疫疾患の成因と病態、血液疾患、内分泌疾患、肝疾患などの成因における免疫学的要因について数多くの優れた研究業績を残された。また日本臨床免疫学会、日本リウマチ学会、日本内分泌学会の会長を歴任され、さらに厚生省特定疾患調査研究班の班長として全国的な共同研究の指導をされた。

これら一連の研究活動、学術上の貢献と、医学教育への寄与に対して、昭和24年日本血液学会賞を受け、また昭和61年勲二等旭日重光章を授与された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（医学部）

保健コーナー

「歯槽膿漏です。なおりますか？」

虫歯がないのに疲れたときに時々歯が痛む。肩がこると歯が痛い。我慢できるからほっておく。歯肉が腫れてうみがでる。歯はぐらついてきたが痛くない。これを繰り返しているうち、ついに我慢できないほどの痛みと腫れがやってくる。やっと歯科医院に行くことに決める。

——これらは歯槽膿漏患者の典型的な受診までの病歴である。歯槽膿漏は慢性疾患であり放置しておいても決して良くならない。そして気がつかないうちにどんどん歯を支える骨が溶けていく。原因はすべて歯垢である。歯垢は食べかすではなく細菌の塊である。これがいたずらをするのだ。歯肉の腫れをおこし、骨を溶かす。歯槽膿漏は加齢による変化で、老人の疾患であるという考え方は既に迷信と化している。診療所の患者のなかでも歯槽膿漏に罹患している学生はかなり多い。20歳で、もう恋人とキスもできない状態となっている。

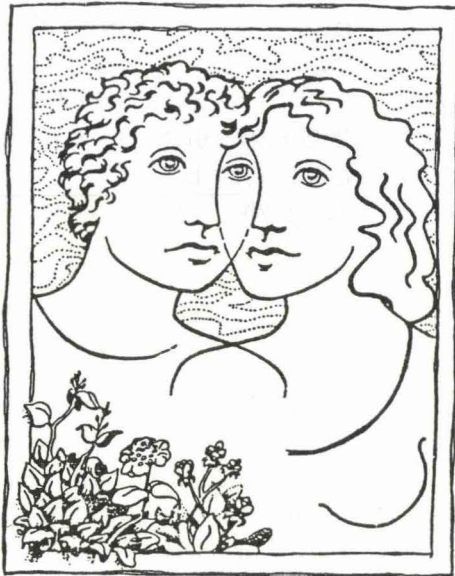
誰しも、歯に痛みのない場合、歯科医院のドアを開けない。さらに少々の痛みであれば、歯科治療に対する不安恐怖が先立ち我慢する。しかし強い痛みは、誰にもわかれあうことができず孤独で、主観的なもので、一刻でも早くそれから逃れたいと思う。友人、恋人に相談しても、歯科に行った方がいいじゃない、と軽く一蹴される。勇気を奮って歯科医院のドアを開ける。そこには独特な薬剤のきつい臭いがし、あのいやなマシーン音が聞こえて、また不安におののく。さらにそこに、事務的な顔をした受付嬢がいて、大きなマスクをした無愛想に見える歯科医がいる。誰しもすぐに逃げ出したくなる。しかし現実には、それでも待合室で順番を待つしかない。重苦しい沈黙が破られやっと自分の名前が呼ばれる。診療室に入り、チェアに座らされる。左右のチェアではミイラのように寝転んだ同胞が口をぱっと大きく開いている。もう自分はまな板の上の鯉と諦める。程なくして歯科医がやって来て、どうされました、と聞かれる。歯が痛いから来ているのに、どうさ

れましたもないだろう、と思いながらも、ここが痛いと言を口を開け指で押える。歯科医は、どうしてこんなにひどくなるまでほっておいたのですか。腫れてうみもでていますよ。典型的な歯槽膿漏で、ひどく化膿していますと半ば詰問調に説明したうえで、化膿止めをきちんと飲んで下さい。歯を磨かないとだめですよ。きちんと磨かないとあと10年で歯は一本もなくなりますよ、と診断は終わる。全く患者の話は聞いてくれず、歯科医は言いたいだけのことを言う。さんざん待ったあげくに、お小言ばかり頂戴し、自分の全人格を否定されたような、惨憺たる気持ちで歯科医院を去る。もう二度と、こんな歯医者に来るものか、馬鹿野郎め。痛くなりたいと思って痛くなったわけではないと自分を慰めざるを得ない。

——この世の中にはこのような歯科医はほんの一握りしか居て欲しくないと私は願うが、これに似たことを誰しも少なからず一、二度は経験されたことがあると思う。私自身の診療室においても、忙し過ぎるからとの口実で、患者にこのような気持ちを抱かせているのではないかと、あとで反省することしきりである。それではなぜ患者と歯科医の間にこのように意思の疎通がはかられない

のであろうか。患者は今の苦痛を取り除いて欲しいと思う。歯科医はそれを一番てっとり早く取り除ける方法を考え、化膿止めを投薬し、歯を磨くように言う。これでは決して良くならない。一時は痛みもとれて症状は軽快するかもしれない。患者もしばらくは痛みから解放される。しかし残念なことに必ず再び痛みが襲ってくる。そしてこれを年に何度も繰り返す。そのたびごとに歯科医に行く。歯科医は諦め顔で、また薬をくれる。これでは全くむだの繰り返しと思われまいか。

さて話は転じるが、動物園のキリンや猿が虫歯だらけで歯石がいっぱい付着して歯肉がはれてひどい歯槽膿漏であることをご存じであろうか。野生の猿は虫歯もなければ膿漏もない。この根本的な原因は食生活の変化にある。世の中は便利になり加工食品のオンパレードである。確かに吸収消化と栄養は十分かもしれない。しかしこれがくせ者なのだ。歯にべったりついて歯垢形成を促進する。木の実や茎や根をたべていた野生の猿は食べることで同時に歯を磨くこととなっていた。これを自浄作用という。今の世の中、政治も経済も自浄作用が失われていて、グルメ時代の昨今は、口の中にも自浄作用は全く期待できず、歯糞だらけ



*Love consists not of
looking one another in the
eyes, but of looking
outward in the same
direction.*

となっている。生来不精な私は、今、口の中を鏡で見るたびに大学の歯学部に入ってこれを知るまで、まじめに歯を磨かなかったことを、悔やんでいる。

毎日、歯磨き指導をしたり、歯石をとったり、重症の場合には歯肉を切ったり、はいだりしている。しかし歯槽膿漏治療の主役は、やはり自分の歯を磨いて、口腔の衛生を維持している患者自身であり、歯科医はそれを手助けしているだけである。歯槽膿漏がなおるも、なおらないもすべては

患者の手の中の歯ブラシにある。相対峙して患者の怠慢を怒っても歯槽膿漏は治らない。ただ歯科医は患者の未来の Happiness を期待して時々手をさしのべるだけである。歯科のオフィスのドアはいつも開いていて、何人も拒みません。

——最後に、あなたはのこの人生をどのように過ごしますか？いつまでも自分の歯でおいしく、お幸せにと、願って止まない。

(保健診療所 坪井陽一)

<資料>

国立大学教官等の待遇改善に 関する国立大学協会の要望書

国立大学協会第84回総会において、国立大学教官等の待遇改善に関する要望書が決議され、文部大臣及び人事院総裁に提出された。

平成元年 6 月 29 日

国立大学協会会長
有 馬 朗 人

国立大学教官等の待遇改善に関する要望書

国立大学教官等の給与等の待遇改善については、人事院をはじめ関係機関の特段の配慮を得て改善がなされてきたところであり、そのことについては、関係各位のご努力に対して深く感謝する次第であります。

いうまでもなく、近年、教育改革の問題が焦眉の国家的課題とされ、大学についても、教育・研究の充実整備が課題となっていることは周知の事実であります。大学の教育・研究体制の改革は、その担い手である大学教官等の資質の向上が基本的前提条件であり、そのためには、大学教官等に有為な人材を確保できるよう給与等の処遇の面でも、良好な状態を醸成する必要があります。

しかしながら、それは未だ十分であるとは言いがたい状況にありますので、国立大学教官等の待遇改善を図るため、以下の諸点につき特段の措置を講ぜられるよう、重ねて強く要望する次第であります。

記

1. 教育職(一)の俸給体系の是正を図り、併せて俸給水準の格段の引き上げを行うこと。

大学教官は、大学の教学の中心を担うものであり、教育・研究に深い情熱と高い能力を併せ持ち、人格において優れた人材を擁することは、大学の根本であることに鑑み、その俸給をその職務と責任に見合う水準に引き上げるよう特段の配慮を引き続き強く要望する。また、俸給水準の引き上げと同時に、中堅教官の処遇を大幅に改善し、早期に最高号俸に到達できるよう措置するとともに現行の年齢による昇給延伸制度についても教官の職の特殊性に着目して、その年齢の引き上げを図る。

なお、その際、国立大学教官の給与水準が私立大学教員より大幅に下回ってきていることが、人材の確保の面での障害となってきていること、更に助手については、高校教諭の給与より下回っていること等の実態に十分配慮するとともに、教務職員についても、その格差是正を図る。

2. 大学教官特有な職務に見合う手当として「大学研究調整額」(仮称)を新設すること。

周知のように、義務教育教員には教職調整額、医療職については初任給調整手当など特別な手当がその職務の特殊性に基づいて支給されていることに鑑み、大学教官にも教育・研究上の高度の専門性と特殊性を有すること、及び、それに基づく実験・実習、フィールド・ワークなど多様な職務を遂行する特別な負担があることを考慮し、大学教官特有の職務遂行に見合う特別な措置として「大学研究調整額」(仮称)を新設し、すべての大学教官に支給する。

3. 教育・研究支援職員等の待遇の抜本的改善を図ること。

当国立大学協会は、かねてより大学特有の専門職である技術職員等の教育・研究支援職員の抜本的な待遇改善を要望し、新設された「専門行政職俸給表」の適用を切望してきたが、これら職員の現状が同俸給表を適用できる状況に置かれていないとして、その適用が見送られてきたところである。

大学における教育・研究支援職員の教育・研究に果たす役割は大きく、かつ、不可欠なものであり、俸給表の種類にかかわらず、これら職員の俸給をその職務と責任に見合う水準に引き上げるよう措置する。

当協会としても、教育・研究支援職員の在り方について、現在、各大学の意見を聴取しながら、官職の整理、組織化等について各国立大学に対しモデルを示して実施方の提言を行ったところであり、今後の整備の動向をふまえこれらの職員の特殊性を十分考慮のうえ、「専門行政職俸給表」への移行を早期かつ円滑に実現させる。

4. 部局長(副学長、学生部長、事務局長等を含む。)のすべてについて指定職の完全適用を図ること。

部局長等は、その職務と責任からして指定職の適用を受けるのが当然の措置であるが、未だ定数が十分でないために、すべての部局長等が指定職の適用を受けているわけではない。

指定職制度は、特定の職務就任を条件に適用するのが本来の趣旨であることを踏まえ、部局長等については、その在任期間中はすべて指定職俸給表が適用出来るように措置する。

また、特に教育、研究の功績顕著な教授に対して指定職俸給表の適用を拡大する。

5. 管理職手当の適用対象を拡大すること。

近年、大学における管理運営の職責が益々重くなりつつある実情に鑑み、評議員、全学段階の委員等の学内教育行政の要職にある者については、管理職手当支給の途を開くよう特に配慮する。

6. 大学の中堅職員(事務系)の待遇改善を図ること。

大学においては、事務長、補佐、係長等の定数が固定化されており、豊富な職務経験、職務遂行能力を持つ適任者でありながら、昇任・昇格が限定されるために俸給の上で格差を生じている。このことは、大学の中堅職員等に職務遂行意欲を欠くこととなり、ひいては大学運営の業務に重大な影響を及ぼす結果となりかねない。

よって、この際、大学の特殊性を十分に考慮し、これら役付き職員と同等の資格、能力を有する者には、専門職員制度を拡大して適用するとともに上位の級別定数について特設の措置を図る。



日 誌

(1989年7月1日～8月31日)

- 7月5日 フランス共和国理工科大学 B. Esamber 学
長ほか3名来学, 総長及び関係教官と懇談
- 8日 故百名盛之教授の教育学部追悼の集い
 ♪ 医療技術短期大学部「健康科学公開講座一
支えあって生きる一」(以後, 7月15日, 22日,
29日)
- 10日 アメリカ合衆国 Columbia 大学 Teachers
College M. Timpane 学長来学, 総長及び
関係教官と懇談
- 11日 農学部公開講座「農業簿記・農業経営講習
会」(16日まで)
- 12日 附属図書館商議會
- 17日 アメリカ合衆国 Colorado 大学 M. J.
De'aney 国際交流担当専門官ほか5名来学,
総長及び関係教官と懇談
- 20日 総長, 大学院生協議会と会見
- 21日 連合王国 London 大学 Imperial College,
A. Kennaway 教授来学, 総長及び関係教
官と懇談
- 24日 学位授与式
- 25日 数理解析研究所公開講座「数学入門」(8月
3日まで)
- 8月1日 人文科学研究所公開講座「生活空間の文化
史」(3日まで)
- 3日 理学部公開講座「高等学校教育関係者のため

の現代数学展望」(9日まで)

- 21日 情報処理教育センター公開講座「パソコンプ
ログラミング入門」(25日まで)
- 24日 霊長類研究所 公開講座「霊長類の進化」(25
日まで)
- 25日 連合王国大使館 R. Hinder 科学官来学, 総
長と懇談
- 31日 総長, 高等教育・研究機関の実情調査並びに
学術交流に関する打合せのため, ドイツ連邦
共和国を訪問(9月8日まで)

—お知らせ—

コ ラ ム 欄 の 掲 載

京大広報をより親しみやすいものにするた
め, 本号から新たにコラム欄を掲載するこ
とにした。

執筆者は, 本学教職員の中から広報委員会
が依頼し, 個人の立場で自由に執筆願うも
のである。

なお, コラム名「洛書(らくしょ)」は, 吉
岡健二郎前広報委員会副委員長の命名であ
り, 題字は西島安則総長によるものである。

これを機会に広報への関心が高まれば幸い
である。



アメリカ合衆国 Colorado 大学 M. J. Delaney 国際交流担当専門官ほか
5名来学, 総長及び関係教官と懇談(7月17日)

